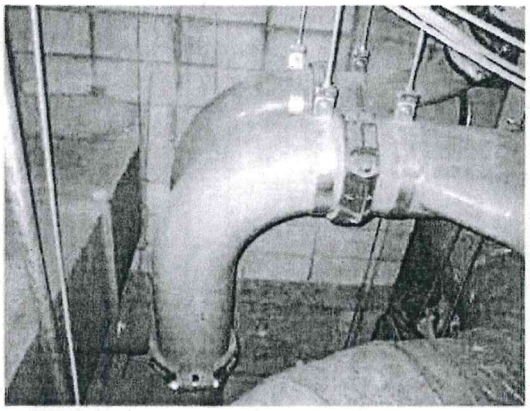
日刊 産業新聞
Japan Metal Bulletin
2022年（令和4年）
11月10日（木）
第20560号
Since1936

流浸工業

独自の塩ビ鋼管 受注倍増

首都圏再開発で採用多数



リューコート鋼管250A

各種樹脂コーティング鋼管の製造販売を手掛ける流浸工業（本社＝堺市、大久保秀俊社長）は、独自製品である塩ビ樹脂コーティング鋼管（商品名＝リューコート鋼管・リューコートLight）シリーズやナイロンコーティング鋼管の受注が前年度から倍増している。特にリューコートLightは通常のSGP（配管用炭素鋼）管より約80%軽量化した防食性能の高い軽量鋼管として注目されており、本年度は大阪府内や首都圏の再開発案件に採用が続々と決まっている。大久保社長は「実績を積んで今後は地方での採用にもつなげていきたい」と意気込む。

高防食性、軽量化版も

同社は流動浸漬法による樹脂コーティングのパイオニアとして、1950年台後半に旧西ドイツで開発された流動浸漬法を60年代前半に初めて日本に導入した。粉体樹脂槽の底部分に多孔板を並べ、多孔板から圧縮空気を送ることで粉体樹脂を流動させ、この樹脂槽内に予熱した被塗物（鋼管）を浸漬する方法で鋼管の内外面に樹脂層を形成する。こうして加工されるコーティング鋼管は防食性の高い鋼管としてのニーズが高まっている。

中でも塩ビ樹脂コーティング鋼管の独自商品である「リューコート鋼管」は昨年から北海道札幌市の大型再開発事業にも採用され、250A・200Aサイズを中心にこれまで200本以上を納入した。主に排水系統での需要が旺盛という。

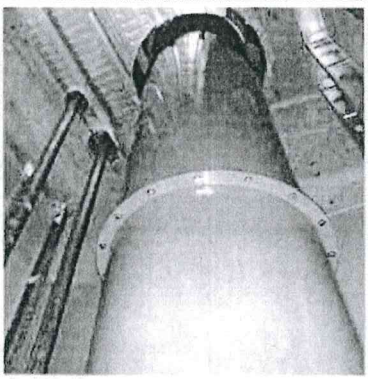
高層マンションやオフィスビルでは下層階の排水系統の口径が250Aと大サイズとなるが、そのサイズは耐火二層管などもなく使用できる管種が限られるため、同鋼管の採用が相次いでいる。

大久保社長は「排水系統ではY管やTY管、ヘッダ管などの形状も多く、鉄管の溶接製管の後に防食加工を行う製作自由度の高さも要因ではないか」と受注倍増を分析する。

リューコート鋼管シリーズでは、より軽量化された「リューコートLight」も商品ラインアップで存在感を発揮している。

国土交通省のNETISに登録されているリューコートLightは、板厚1・6㍉の鋼板をスパイラル状に巻き、スパイラル部を溶接した原管を使い、内外面塩ビコーティングを施したもの。耐食性に優れ重量はSGP管の約5分の1と80%の軽量化に成功し、施工時の省力性にも高評価が集まっている。

スーパーゼネコン某社の本社ビルにも採用され、今春からは神奈川県内の市庁舎でも受注した。傾向としては「原設計の段階でリューコートLightがスペックインされる事例が多い」（大久保社長）とし、大阪の大型物件では過去最大口径となる500Aでの受注も確定した。虎ノ門エリアや東京駅近郊の構想物件でも採用が検討されている。

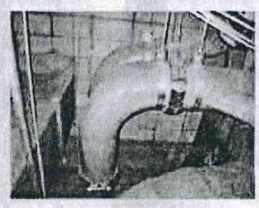


リューコートLight500A

きょうの紙面

12面　非鉄ニュース
米アルミ二次合金需要増

3面　鉄鋼ニュース
流浸工業、独自鋼管が好調



2面　セクター長に聞く
ＪＦＥスチール・ステンレス

5面　台湾の展示会ルポ
循環経済、高雄から世界に

マーケット情報

外為TTS	9日10時	三菱UFJ銀行
ドル	146.81	⇗
ユーロ	148.20	⇗
人民元	20.42	⇗
LME相場	現地8日セツル、ドル	
銅	7974.0	⇗
アルミ	2327.0	⇗
ニッケル	23410.0	⇗
亜鉛	2901.5	⇗
東証終値		9日、円
27,716.43	155.68	⇘
日本製鉄	2,201.5	⇘
JFEHD	1,510.0	⇗
神戸製鋼	650.0	⇗

〈6面に主要企業株価欄〉

鉄スクラップ総合価格	9日調べ、円	
H2	49,600	
新断バラ	50,800	
鉄スクラップ湾岸価格	関東地区、円	
H2	48,500−49,500	
バルチック海運指数	現地8日	
1356	⇗	
WTI原油先物	中心限月、現地8日、ドル	
88.91	⇘	
中国先物市場	中心限月、現地8日、元	
異形棒鋼	3536	⇘
熱延鋼板	3621	⇘
中国輸入鉄鉱石湾岸価格	現地8日、ドル	
(CISA調べ)	89.47	⇗

PROGRESS 100 百年企業へ